

# 動いた土木部課長評 (三)

丹 波 浪 人

○

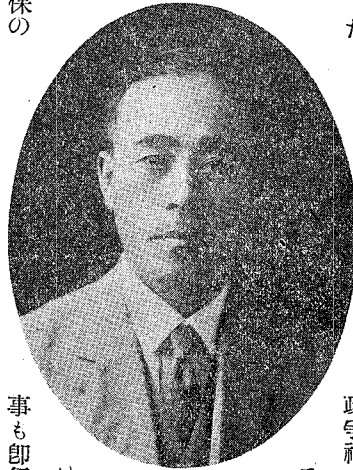
宮崎から秋田へ行つた片桐兼次郎君、皇祖降臨の地とは  
 言ふものの資源に乏しい宮崎よりは秋田の方が面白があ  
 る、と言つた程度の轉任だ、併し郷里宮城縣松島の近くに

販り得たのが君に採つては何よりの幸であろう。

君が官界に足を入れたのは東北大學農科を卒業した明治  
 四十一年の昔からだ、何でも在學當時は秀才で、夫れに惚  
 れ込んで卒業すると直ぐ埼玉縣技手に採つたのは、例の山  
 田博愛であつた、懇望されて任官したのだから相當な地位

にまで上るべきであつたのに、大正七年大阪府技手——兼  
工師と爲るまで十年間も居据つてゐたのは、彼れ山田が捨  
てたのか夫れとも君が餘り働かなかつたのか判らないが、  
そんな詮議は罷めるが、武骨な山田に惚れられたのとは違  
つて随分女に持てる所謂艶福家だそうだ。  
埼玉時代のが大阪まで付き纏つたと  
や言ふ噂もある位だ。

併し大阪では眞面目に働いて技  
手——工師——技師と言ふ風に榮  
進して、泥臭い江ノ子島土木出張  
所で主幹をしてゐるが、八年山梨縣  
へ轉じて吞助黨の高田正二や渡邊英保の



下で働いた其の勞苦が酬ひられて、大正十三年に宮崎縣土  
木課長に榮轉した、その時こそは餘程嬉しかつたと見え、  
赴任の途中東京驛で有金の全部を拘られても尙知らなかつ  
たと言ふ位に狂喜したと言はれてゐる。

ところが赴任して見ると山梨とは違つて、政友會の全支

配下には置かれてゐない、憲政會も相當な勢力がある、そ  
こえ内閣の交迭する毎に政黨色彩の鮮かな知事がやつて來  
て、君が手を出したことを實行に至つて縛ると言ふ調子、  
折角君が計畫した宮崎市内大淀川の架橋でも、架橋地點が

政爭禍中に弄られて今に決定しない、是等は黨  
爭の弊害が重大な原因であるにしても、

片 君が事に方つて斷定を躊躇する罪  
兼 桐 も亦關つてゐる、思考するのも可  
次 郎 だが、ドーセ政治鬭争の世の中だ、  
君 計畫を容れられたときに實行せな  
ければ直ぐ壞さるゝ、君に變むるのは何  
事も即行が肝要、と言ふ言葉につきる。

秋田は美人の産地だ、親が與へて呉れた美貌を自慢に脂  
下つてゐる間に知事が變つて土木事業が出来ないこと必定  
だ、齡不惑を數えて今更浮氣沙汰でもあるまい、大に即決  
味を見せて私の言葉を裏切るが可い。

志賀の里から高知へ變つた河合清君、轉任辭令が發表されない先から挨拶に廻つた位に手廻しの早い男だ、辭令が出やうが出ないが前川技術課長が内示すれば夫れで轉任を命ぜられたものと心得るところは、會社

式だ、夫れも其の筈で、君が大正六

年九大土木學科を出ると直ぐ例の

鈴木商店に這入つて、電報一つて

人事を決行した鈴木式で養成され

た勢だ。不景氣風が吹きそうにな

つて鈴木商店を失敬し東京府技師と

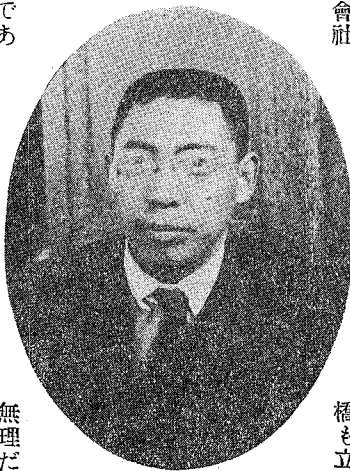
爲つたのが、君の官場入りの第一歩であ

つたが、目黒川改修工事に従事して官吏生活の要領を會得

し、相當に信用を博して滋賀縣土木課長に爲つたのは昭和

二年であつた。

滋賀は陸地こそ小さいが比較的土木事業の多い縣だ、道



路事業にしても昔知事の堀田義一郎が樹てた道路の大改良計畫があつて、初任土木課長としては少し重荷であると言ふ位に噂立てられた、併し幸な事には土木通を以て許されてゐる堀田君が居ると言ふので君の榮轉が是認された譯だつたが、親が子を心配する様なものではない、有名な横田

橋も立派に完成さして人の懸念を裏切つたとこ

ろは、河合君實力の表現で將來を囑目さ

合 實力、夫れが君を強くせしむる

のであるが、夫れを何から何まで

清 自己實力の支配下に置かむとする

君 無理だ、部下のした仕事に對しては相當の敬意

のは職務分界の立てられてゐる現在では

を拂つて統制せなければならぬ、そこに土木課長としての

心得を必要とする所のだが、君は夫れを忘れて實力を亂用

した傾がある、工手學校出身の技手が一團と爲つて君を排

斥しやうと計畫したのは、詰り君の美點とも言ひ缺點とも

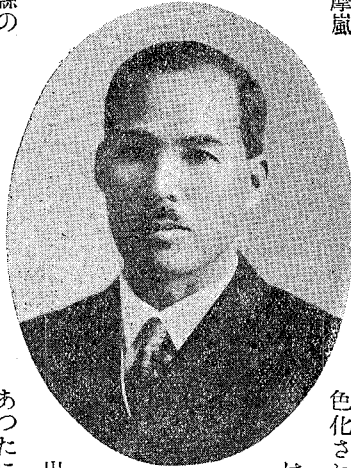
見らるゝものに對する挑戦なのである、諸行の程度超過は考へものだ。

任地高知の人間は、滋賀の里人とは違つて熱血兒が多い、君の實力統制をこゝに其の儘移すことは正面衝突の危険を伴ふ必定だ、モ一少し雅量を示し薩摩嵐がそよ／＼と。と言ふ位な緩和味を取り入れて旨くやつて貰ひたい。

○

隨分永らく熊本に居据つてゐた山田一君が宮崎縣土木課長に轉じた儘かに左遷組の一人と言つて可い、縣の

等位ばかりでそう言ふのではない、明治四十三年や四十五年の高工出が、遠の昔立派な府縣の土木課長に爲つてゐるのに、四十年に五高工學部を出た君が今頃に爲つて宮崎あたりに彷徨してゐるのは餘り感服しないからだ、併し本人は五高を出てから松山電氣會社に這入つたりして横道を歩



いた爲に人よりも遅れたのだ、と言ふ風に辯明して餘り不平顔も見せない、そこに君の利巧性が窺はれる。

大正十年熊本縣技師と爲つてから昭和三年同縣土木課長と爲る迄は、隨分内閣も變つて札付き知事が就任し、政黨

色化された役人を片端から齧首したにも不拘君は泰然として動かされなかつたのは、そ

山 こに何等かの理由が無ければなら

田 ぬ、或は君が排政黨主義で遣り通

一 したやうにも見えるが、巡查や小

君 使迄が政黨に加入せなければ奉職

出來ない熊本で、假令君の意思はそうで

あつたにしても、熊木の世間は許さなかつたで

あろうに、夫れにも不拘七年間居据り得たのは、社交家の

妻君を持つたお蔭だと噂されてゐる、何でも妻君は政治

家の令嬢で雜作なく縣會議員位を説服する腕の持主だそう

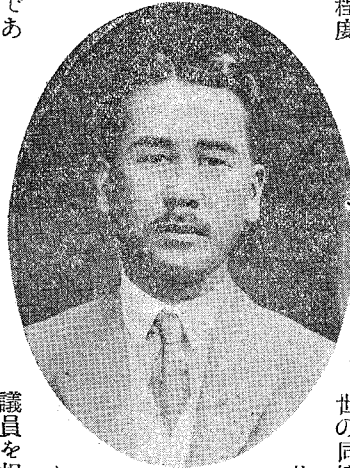
だ、或る技師が僕の嬬も彼女の半分位の腕があつたらナ

と羨望した位に君は良い配偶を得たものだ。

昭和三年、時の土木課長東森藏が變な氣を出して政友會を罵倒し辭職したとき、君が其の後釜に据つたので、政友會に加擔して東を追出した者は君であると言ふ連中もあるが、温厚な君に夫れが出来たかは頗る疑問で私は夫れを信じない、が併し元來利巧な性だから、そんな噂を生むのであろう、言はゞ河合君と同じやうに程度

超過の特性の持主だ。唯だ君が無口で利巧性を露骨に發輝しないところを捉えて人は君を隱險な男だと評するのであろう。

宮崎も餘り熊本とは變らない處だ、であるから熊本で非難された君の特性を矯ることに依つて男を賣るであらう、任地は皇祖降臨時代と餘り變らない原始河川や道路を保有してゐる縣だ、夫れを熊本の夫れ位の程度に引き上げ改善することが、君の使命だ。



德島縣の土木課長から新潟縣のひら技師に轉じた年光十一年、君も左遷組の一人だが、折角捷も得た土木課長の職に四年間も居ながら今更ひら技師とは随分辭い遣り方だ、世の同情を受くるのも亦茲に在る。

此災難に遭つたのは、今の内務省土木局長の三邊さんが、曾て德島縣知事時代に君を使つて餘り君の眞價——行政的の手腕の程を知り過ぎてゐるたからだと評せられてゐるが、實際君は土木課長と言ふやうな縣會議員を相手に仕事をする役目は不得手だ、夫れは部下の技師であつた中忠義の方が上手だ、唯だ君は純眞の技術家としてコツ／＼と計算し設計を按することに妙を得てゐる、現在府縣土木部課長の内で橋梁設計に堪能なのは、君を措いて他に一人も無いと言はれる位の技能を持つ

てゐる、由來土木技術官は事務官とは違つた型を持つてゐる亦夫れが當然であるが、其の中でも橋梁専門の技術官になると其の濃度が餘りに甚しい、酷いのに爲ると浮世離れがしてゐる、君が橋梁専門の技術官として他の土木技術官より世慣れぬことは、獨り之を君にのみ咎むることか出来ない、曾て内務省河川課長の岡田君が徳島に出張したとき、あの送電線は何處から來てゐるのだと尋ねた、すると、あれは山から來てゐると答へた、夫れ位の滑稽味のあることは橋梁専門の技術官には寛容しても可い位だ、併し此世慣れぬことを知らない人は直に其の人の行政的手腕を評價して零だと言ふ、言ふ方が無理では無からうか。

夫れは兎に角、君が最も不得手とする土木課長に爲つたのが間違であつた、併し橋梁の専門家だけに徳島縣在任中に東洋第一と言はれる吉野川の架橋——古川橋を完成し、三好橋を架けたことは徳島縣人が君に感謝せねばならぬ、折角架けた三好橋の中間が下つたと言つて君を非難する人もあるが、サスペンション式橋梁が下るのは當然で、之を

彼は言ふのは間違だそうだから其の非難は君の眞價を傷つけるものではない。

任地新潟は、河川の多い處で従つて君の専門とする橋梁工事も随分多いであらう、ひら技師と爲つたお蔭で行政事務の方面は構ふ所でないから君固有の技術を應用して模範的橋梁でも架けて凡俗な技術界を指導し給へ。

兵庫縣土木部の道路課長であつた岸田正一君が、山梨縣の土木課長に轉じた、本人の自負心からすると、或は凡轉のやうに考てゐるだらうが、世間は夫れ程に君の前職を重く見てゐない、大正七年九大を出たばかりの君が、大正三年東大出の齋藤英夫の後を襲つたことは慥かに榮轉だ。

九大を出て直ぐ熊本縣に這入つて今の山形縣土木課長兒玉靜雄の主管してゐた、例の有名な埋築事業に従事した、其の勢で所謂兒玉式を見習つたものか夫れとも生れ付きか知らないが、兎に角君は辯論家だ、其の後長野縣技師と爲つ

て篠ノ井架橋事業に従事してゐた頃は、例の無口は西池氏文に抑へられてゐた勢か、餘り辯論家とは思はれ無かつたが、大正十四年兵庫縣技師に爲つてからは、其の個性を發揮して寧ろ辯論家と言ふよりも辯論を弄する型だ、で君に何事かの話を聞かうものなら、根から枝夫れから葉に亘つて論述して行く處は、例の有名な奥村長作

に良く似てゐる、淀川の堤防が今破

壤して善後策を講ずる相談中にも

降雨の状況から話さなければ腹の

虫が承知しない底の男だ、である

から大抵の聽者は尻を上げて話を

打切らす位だ、其の君の熱心さは感

服するの外ないが、是も亦程度ものだ。

歳に似合はず世智に長けてゐるのは、同年輩の課長連に多く其の例を見ないであらう、會て長延連が兵庫縣知事時代に府縣道の認定を計畫し、君に其の重任を任せたとともに立派に跡仕末した六ヶ敷屋の延連さんをして喜ばしむる位

の手腕はある、で土木課長としては立派に立ち働くであらうが、知事平田紀一は、温順な口數の妙い人だ、餘り君が踊り過ぎると叱られるかも知らぬ、要心が肝要だ。

岩手から徳島に移つた中原藤一郎君、五年前の

四國勤務に戻つたと言ふだけのこと、凡

岸 轉組の一人だ。

田 君は明治四十四年に東大を出て

正 一 から永らく東北大學の講師やら教

授をしてゐた勢か先生型式のところ

ろがある、が併し夫れにも似合はず行政

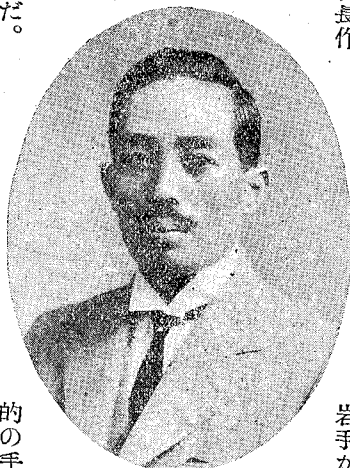
的の手腕も亦相當だ、岩手時代にも本省あたり

には少しも知れてゐなかつたが随分澤山に道路の改良など

をやつてゐたことが後から知れて、君の手腕が判明したと

言はれてゐる、唯だ獨りで事をきめて中央と連絡なしに仕

事するから手違を生ずる場合がある、成る程、地方分權の



立場からすると中央などに頼る必要もないであろうが、夫  
れは中央の方針なり空気を知らないでも可いと言ふことに  
はならぬ、本會の會員でも岩手には獨りも居なかつたのは、  
君の孤獨氣性を表はしてゐる、共同生活の爲には一本調子  
の孤獨では世の中が治まらない筈だ。

今の世になつても士族平民の區別  
を八ヶ間敷言つてゐる鹿兒島の産  
で、一杯飲めばお國根性を發揮す  
る、會て香川縣時代に道路主事の  
岩切彦吉とは同郷でありながら念  
入りの齎合をやつたと言ふ勇敢味を  
持つてゐるが、身を持つるには頗る嚴で、  
年末年始の贈物などは片端しから返却するそつだ、官吏殊  
に土木官吏としては可い心がけた、徳島も随分煩さいとこ  
ろ、うまく治めて貰ひたいものだ。



今更岩手行きでもあるまい、と言ひながら中原君の後に  
据つた長谷川勝伍君、實際群馬から岩手へは氣の毒だが、  
長官丹羽七郎とは中學時代の同窓だし、兩人の親父は同じ  
會津藩の飯を喰つた間柄だから將來のことを想ふと、満更  
君の爲に損とは爲らぬであらう。

君は明治四十三年の仙臺高工出身だが、  
中 府縣土木課長の内では上乘なもの  
原 藤 一 郎 だ、誰も君を高工出身とは思はな  
い位だ、夫れに加へて固有的の熱  
と意氣とは矢張り會津の系統を受  
けてゐて丹羽長官と同じ様に、竹を割つ  
た様な性格を持つてゐる、此性格が君の今日を

大ならしめたのであらうか、先達て亡くなつた八ヶ間敷屋  
の技師比田孝一は、君を見ること我兒のやうに可愛がつて、  
自分が内務省から朝鮮に行けばつれて行く、内務省へ歸れ  
ば又呼び寄せると言つた調子で育てあげ教育したものだ、  
併しいつ迄も手許に置くことは君の將來の爲でもない、可



愛兒には旅をさせろと、言ふ諺があるからと言ふので大正九年に山形縣技師に出した。

本省に据つてゐて、勝手なことを言ふ比田に養成された長谷川に、地方勤務が出来たであろうかとは一般の批判であつたが、何處で誰に教はつたのだが縣會議員の操縦も課長よりは上手にやる、技術の方も至つて

眞面目にやると言ふのが評判に爲つて、居ること四年で鳥取縣土木課

長に榮轉した、有名な貧乏縣のことだから随分苦しんだ想だが、夫れでも日野大橋を架けたり港灣を修築したりして相當な成績を挙げた是等は何れも君の熱の賜であらう。

昭和三年群馬に榮轉して來て間もない裡に若手に轉じたのだから未練が残るのであらうが、消極一點張りの今日此頃でも、岩手は土木事業を起して失業者を救済し農村疲弊の禍根を芟除すると言はれてゐるから、君の手腕に俟つも

のが多いであらう、初任知事の丹羽さんを助けて旨くやつて貰ひたいものだ。

石川から群馬に變つた西義一君、形式は榮轉と言へない

やうだが、財政的には群馬の方が惠まれてゐるから自然と土木事業も多い、夫れで榮轉組と

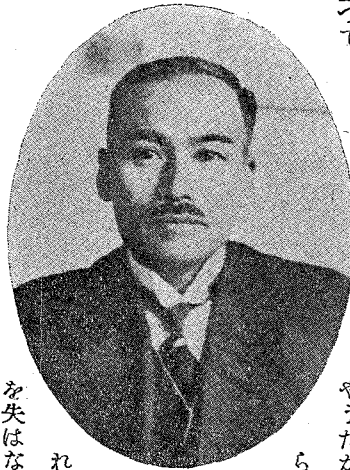
長 しても可いだらう。

大正四年に東大を出て、五年間も朝鮮に殖民地生活をして居たか

君 夫れがキビ／＼働く様にも見えて快男兒たる

を失はない、大正九年に朝鮮生活を罷め靜岡縣に

這入つて、例の政治技術家藤宮惟一の下で東海道安倍川の架橋に専心従事して居たが、當時道路博士と紳名され有名な例の工博牧彦七と技術上の點に就て所見を異にした、牧博士からすりや若造に橋梁技術が判るものかと高を括つて



訂正を命ずるのであつたが、西君は自分の考察が正當だと頑張つて承服しない、專制的の藤宮も此兩人の論争には少々手を焼いたらしい、遂に西君の自由に任せたので、西君は自分の設計を携帶して内務省に技監を訪問し、牧博士と意見の相異する點を擧げて決定を求め、

技監室で牧博士と對席論議を戦はす

こと數日、遂に問題は解決された

が、ひら技師でありながら當時道

路技術の第一人者を以て自負し世

間も亦夫れを許してゐた牧博士の

意見を破らむとする西君の意氣は壯

であつた、意見は人に依つて厚薄の價値

を附けらるゝものではない、私が若造だから老大家の意見

を無理に承服しなければならぬ筈はない、とは君當時の言

葉だつたが、今も尙其の意氣を持續してゐる、牧博士も人も

知る様に熟と意氣とある男だから夫れ以來と言ふものは西

君を觀る事愛兒に接する様な調子で、兩者の懇親は益緊密



を來し今も尙持續してゐる、何と言つても頼もしい男だ。

夫れのお蔭ではないが、架橋工事が終つて是から大井や

富士の大川にも橋を架けると言ふので、君は歐米各國の橋

梁視察に出張した飯朝以來蠻風は少しは抜けたが、明晰な

頭は洋行に依つて更に君の智能を該博ならしめ

た。歸朝後石川縣土木課長に轉じたが、

西 貧乏縣のことで君の手腕を振ふだ

けの餘地がない。夫れに加へて部

下からは刑事被疑者が出ると言つ

君 一 た調子で、少々否氣が差してゐた

ところに今回の轉任を見た、君の喜ぶの

も無理はない、群馬には君の手腕を俟つ仕事

隨分多いであらう、大に活動して石川の鬱憤を晴すがよい。

○

青森から石川へ轉じた大石嚴君、雪國から雪國への轉任

だが、夫れでも榮轉たるを失はない、併し君と同期の大正

四年東大出身組には萩原俊一や金森誠之やらが居て、夫等が相當の地位を占めてゐるのに比較すると、今頃に石川行きは氣の毒な感がないでも無い。是も大學を出て直ぐ官途に就かず日本鑛業會社あたりに居た君の經歷からして已むを得ないであろう。

何でも官途に就いたのは大正八年福島

縣技師と爲つたのが始まりで、其の

後大分や栃木に居たが、在職短期

の勢か餘り各地に是ぞと囃し立て

る仕事をしてゐないのは不満に感

ずる、青森縣時代には道路鋪裝の

計畫を樹てたが、夫れも餘り姑息だ

と言ふので評判が良くなかつた、併し君

に言はしむると、青森には東京で持て囃されるやうな鋪裝

は適合しない、假令夫れが適合しても縣財政が許さないか

ら粗末なもので可い全縣下の道路に及ぼすのが得策だと

言つた、或は夫れが上乘の政策かも知らない、従つて非難

は當らないであろうが、實際五所川原や八戸附近の道路を見ると、青森縣路政の存否を疑ひたい位だ、曾て内務省道路課長が夫れを君に詰問したとき、私の罪ではない金が無いからだ、丹羽大書記官を叱つたとやら言ふ話もある位に、君は卒直な男だ。

折角樹てた道路計畫も實行せずに轉ずるのは

さぞ残念であろうが、石川にても夫れ相

荒 應の仕事がある筈だ、併し西君等

二 榮 に言はずと金澤は住み心地の良い

所だ想だから、縣財政が貧弱なこ

君 とに藉口して遊で居て貰つては困

る。積極的にやり給へ。



大阪の道路課長からお隣りの奈良に轉じた荒木榮二君、

榮轉組の一人だ、五年も大阪に居たのだから奈良の事情も

滿更知らないことも無からう、で縣下土木の全般に責任を

持つ土木課長と爲つても旨くやるであろう、殊に新潟や秋田では河川工事に従事して澤山な經驗を持つて居る道路に就ては本務であつたのだから手腕に於ては申分は無い。

商業旺盛の大阪、生き馬の眼でも取ろうとする商賣人の多い處で君を見た勢かも判らないが、私の眼には陰気なやうな男に見える、

奈良も陰気な土地だから或は君には適當してゐるかも知らない、併し東大寺の坊主を始めとし、名勝史跡の保存を口にする連中の多い奈良、是等の連中が既に陰氣臭いぞ

こへ陰気な君が行つては晴れやかな仕事は出来やしない、で君に望むところはもう少し陽氣に爲つて、男性的に陰気な奴を開發することだ。



官吏生活を捨てたのであるが、昭和御大典のときに勅任待遇にまで昇つたのであるから、行くべき所に迄行つたのだ、思ひ残すところは無からう。

君が、三十二年に三高の工學部を卒業して東京市技手に爲つてから今日迄、三十年間に我が土木の爲に

盡したところは随分多いであらう、三十

吉 四年兵庫縣工師——技師、四十一

年 年に宮崎縣技師、大正元年に岩手

縣土木課長、九年に奈良縣土木課

長と轉々してゐるが、兵庫と岩手

とに各八年、奈良に十年間も居たことは、

君が圓滿家として人觸りの可い性格の持主たることを物語るものだ、土方乃至は夫れ筋の人間を相手とする土木技術官には不似合な程、優し味を持つ男だ、或は京都に生れた勢で舊京都型の然らしむるところであらうけれども、又純京都人程に腹の中は悪くは無い、併し京都人特有の引込思案——悪く言へば消極的思案に流れるの傾が無

奈良縣土木課長を罷めた吉田登君、明治三十二年以來の

いでもない。

兵庫や宮崎の、ひら技師時代には獨想の意見を實行するだけの餘地も資格も無かつたであろうが、岩手や奈良の土木課長と爲つては君の手腕を振ふ餘地があつた、が併しいつも貧乏縣に廻されてゐた爲に、知事から財政難を聽かされては直ぐ事業案を引き下けて仕舞ふ、夫れが私共に不満を與へたものゝ一つだ、併しそうして知事と共に相妥協して何事も圓滿に行かむとするのが、君の美點であり且つ缺點とでも言ふべきであらう。

併し奈良縣では、縣下全般に亘る道路改良の大計畫を樹立し、大和地方の未開發山林に自動車を送つて林産物の販路を開かむとした、夫れも財政豊富な縣であるならば普通當然のことであるが、貧弱な財政の下では財源から考へ出して計畫せなければならぬので随分苦心したらしい、今も其の計畫は存置され日一日と奈良の道が改良されて行くのは、君が奈良に残した著大な功績だ。

其の計畫で君の圓滿主義を裏切つたものが一つある、夫

れは國道を改良するに就いて東大寺の坊主と喧嘩したことだ、坊主は道を附けられては昔の東大寺の形蹟を破壊すると言ひ、吉田君は、境内地なら文句を言はれても仕方が無いが、他人の所有してゐる普通の民有地を買収して道路を新設するのに何を言ふのかと、一は古蹟保存一は法律論で争つて今も問題は中央に持出されてゐる、君は之に就て聲明書を發表して氣焰を擧げた、圓滿主義の君も事に依つては夫れ程勇敢に鬭争する氣概の持主だ。

今、澤山な功績を残して官界から足を洗つた、君も亦往事を追懷して轉た感慨に堪へないものがある、君の子息は何れも立派な醫者だそうだ、老後を樂むがよからう、唯た三十年に亘る官界生活の勞苦を慵ふ爲に、退官に方つて勅任官にでも昇格せしめたらば可いものを、夫れが出来なかつたのを頗る遺憾とする。(未完)